

令和 9 年度に実施予定の 多面的機能支払交付金の間評価について

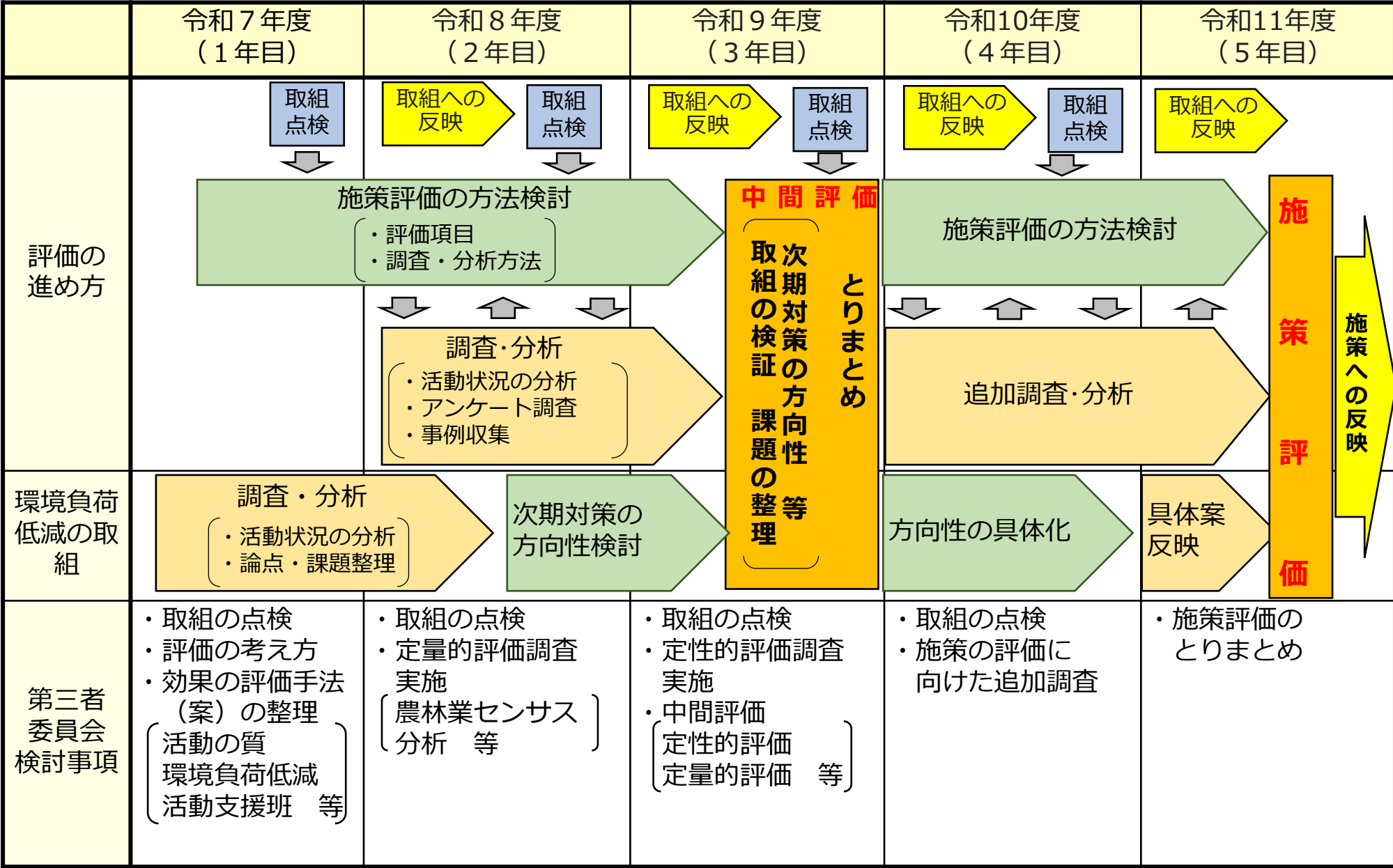
令和 8 年 8 月 4 日

農 林 水 産 省

目次	1
1 施策の評価の進め方	2
2 令和7年度第三者委員会での検討内容と令和8年度第1回委員会での検討事項	4
3 令和8年度第1回委員会での検討事項	5
(1) 中間評価の構成(案)について	
(2) 新たな取組に係る評価項目について	
(3) 「質の高い活動」の定義と評価方法について	
4 中間評価に向けた今後のスケジュールについて	15

1 施策の評価の進め方

- 多面的機能支払交付金の交付が計画的かつ効果的に実施されるよう、取組状況の点検や制度の効果等の検証を行い、施策に反映。
- 第三者委員会における検討を踏まえ、3年目(令和9年度)に中間評価、5年目(令和11年度)に施策評価を実施。



- 国は、多面的機能支払交付金実施要綱に基づき、交付金の交付状況の点検及び効果の評価などを行うことを目的として、第三者委員会を設置。
- 第三者委員会は、取組面積や活動組織数等の交付金の交付状況の点検や活動実績等の実施状況、都道府県の評価、アンケート調査結果等を踏まえた効果の評価を実施。

【国】第三者委員会

目的：当該交付金の交付が計画的かつ効果的に実施されるよう、交付状況の点検及び効果の評価

交付金の交付状況の点検

- ・ 取組面積、活動組織数 等

効果の評価

- ①実施状況
 - ・ 活動実績（実施項目数、実施割合等）
 - ・ 交付金の支出内訳
 - ・ 活動参加人数 等
- ②都道府県の評価
- ③アンケート調査
 - ・ 地域資源の適切な保全管理
 - ・ 農業用施設の機能維持・増進
 - ・ 自然災害の防災・減災・復旧
 - ・ 農村環境の保全・向上
 - ・ 農村の地域コミュニティの維持・強化
 - ・ 地域農業における構造改革の後押し 等

【都道府県】第三者委員会

目的：実行状況の点検、活動組織の取組の評価等

交付金の実行状況の点検

- ・ 取組面積、活動組織数 等

活動組織の取組の評価

- ①実施状況
 - ・ 活動実績（実施項目数、実施割合等）
 - ・ 交付金の支出内訳
 - ・ 活動参加人数 等
- ②活動組織の自己評価に基づく市町村の評価

報告

報告

市町村

活動組織の活動実績・自己評価等をもとに、市町村が評価

活動組織

活動実績、自己評価等

報告

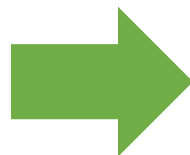
施策に反映

2 令和7年度第三者委員会での検討内容と令和8年度第1回委員会での検討事項

- 令和7年度の第三者委員会では、令和6年度 of 取組状況を点検したほか、効果の評価に向け、食料・農業・農村基本計画に位置付けられた新たな取組を踏まえた評価項目の検討、ロジックモデルの更新、「質の高い活動」の定義及び評価方法の検討並びに評価に向けた調査項目及び方法等の検討について、議論いただいた。
- これらを踏まえ、令和8年度第1回委員会（本委員会）では、①中間評価の構成（案）、②新たな取組に係る評価項目の確認並びに③「質の高い活動」の定義及び評価手法の検討について議論いただきたい。

令和7年度に実施

- 新たな取組に対する評価項目の検討
 - ・ 広域化推進と実施体制構築
 - ・ 外部団体との連携（マッチング、事務局の強化）
 - ・ 事務の簡素化、デジタル技術活用による効率化
 - ・ 環境負荷低減の取組
- ロジックモデルの更新
 - ・ 資源と環境、社会、経済の評価カテゴリーへの新たな取組の位置づけ
 - ・ 既存の項目の整理（削除、移動、名称の変更）
- 「質の高い活動」の定義と評価方法の検討
 - ・ 「地域の課題に対応し、地域の魅力や特色、新技術等を活かし、地域の共同活動の継続や集落機能の維持・発展につながっている活動」
 - ・ アウトカム段階で効果を確認し、それに至った経緯を確認することで評価する
- 評価に向けた調査項目と調査方法等
 - ・ 活動組織の広域化、活動支援班の有無と市町村単位の多面的機能支払のカバー率との関係、「環境負荷低減の取組」に係る効果発現状況等
 - ・ 定量的評価、定性的評価
 - ・ 都道府県の施策の評価、対象組織等アンケート、農林業センサス。カバー率調査など



令和8年度第1回委員会

- **中間評価構成（案）**
 - ・ 食料・農業・農村基本計画の策定や水田政策の見直しに係る多面的機能支払交付金の見直しの記載を追加
 - ・ 既存の評価項目に加え、新たな取組に係る評価項目による評価を追加
 - ・ 「質の高い活動」を評価する
- **新たな取組に係る評価項目の確認**
 - ・ 広域化
 - ・ 外部団体との連携
 - ・ 事務の簡素化、デジタル技術活用による効率化
 - ・ 環境負荷低減の取組に対応する評価項目
- **「質の高い活動」の定義とその評価手法の検討**
 - ・ 前回の議論を踏まえ更新した定義について
 - ・ ロジックモデルに沿った評価手法について

(1) 中間評価の構成（案）について

(2) 新たな取組に係る評価項目について

(3) 「質の高い活動」の評価の考え方について

3-1 中間評価の構成（案）について

I 多面的機能支払交付金創設の背景と中間評価の考え方

- 1 多面的機能支払交付金創設の背景
- 2 本交付金の目的と基本的枠組み
- 3 本交付金における中間評価の考え方

II 農村地域をめぐる情勢

- 1 過疎化・高齢化・混住化の進行による農業集落機能の低下
- 2 農地・農業用水等の資源の状況
- 3 地域共同の保全管理の状況
- 4 農村地域に対する国民の関心
- 5 本交付金に期待される役割

III 食料・農業・農村基本計画の策定と水田政策の見直し

- 1 食料・農業・農村基本法の改正
- 2 食料・農業・農村基本計画の策定
- 3 水田政策の見直しに係る多面的機能支払交付金の見直し

IV 多面的機能支払交付金の交付状況の点検

< 交付金の実施状況 >

- 1 交付金の内容
- 2 農地維持支払
 - ・ 全国の取組状況
 - ・ 地域ブロック別取組状況
 - ・ 地目別取組状況
 - ・ 中山間地域等直接支払交付金との重複状況
- 3 資源向上支払（共同活動）
 - ・ 全国の取組状況
 - ・ 地域ブロック別取組状況
 - ・ 地目別取組状況
 - ・ 農村環境保全活動等の取組状況
 - ・ 多面的機能の増進を図る活動の実施状況
- 4 資源向上支払（長寿命化）
 - ・ 全国の取組状況
 - ・ 地域ブロック別取組状況
 - ・ 地目別取組状況
- 5 取組状況の評価

ポイント

基本法改正に伴う基本計画の策定、水田政策の見直しに係る多面的機能支払交付金の位置づけについて記載

ポイント

- ・ 各活動の実施状況をもとに定量的に評価
- ・ 手法としては、実施状況報告に加え、活動組織アンケート、市町村アンケートの結果も活用

3-1 中間評価の構成（案）について

<取組の分析・検証>

- 1 実施体制
- 2 国民への啓発
- 3 農地集積が進んでいる地域における本交付金の資源保全への対応状況
- 4 SDGs と本交付金の関わり

V 効果の評価

- 1 資源と環境
 - ・地域資源の適切な保全管理
 - ・農業用施設の機能維持・増進
 - ・自然災害の防災・減災・復旧
 - ・農村環境の保全・向上
- 2 社会
 - ・農村の地域コミュニティの維持・強化
- 3 経済
 - ・地域農業における構造改革の後押し

VI これまでの課題と今後の展開方向

- 1 これまでの取組の課題
- 2 今後の展開

ポイント

- ・新たな取組に対する評価項目を追加し評価
- ・「質の高い活動」は事例を把握し、左記1～3の中で定性的に評価
- ・手法としては、都道府県評価、活動組織アンケート、市町村アンケート等の結果をもとに評価

3-1 中間評価の構成（案）について（対比表）

中間評価（令和4年10月）	施策評価（令和6年8月）	今回
I 多面的機能支払交付金創設の背景と中間評価の目的	I 多面的機能支払交付金創設の背景と施策の評価の考え方	I 多面的機能支払交付金創設の背景と中間評価の考え方
II 農村地域をめぐる情勢	II 農村地域をめぐる情勢	II 農村地域をめぐる情勢
	III 食料・農業・農村基本法の見直し	III 食料・農業・農村基本計画の策定と水田政策の見直し
III 多面的機能支払交付金の実施状況 1 農地維持支払 2 資源向上支払（共同活動） 3 資源向上支払（長寿命化） 4 新型コロナウイルス感染症の本交付金の活動への影響 5 取組状況の評価	IV 多面的機能支払交付金の交付状況の点検 ＜交付金の実施状況＞ 1 交付金の内容 2 農地維持支払 3 資源向上支払（共同活動） 4 資源向上支払（長寿命化） 5 新型コロナウイルス感染症の本交付金の活動への影響 6 取組状況の評価	IV 多面的機能支払交付金の交付状況の点検 ＜交付金の実施状況＞ 1 交付金の内容 2 農地維持支払 3 資源向上支払（共同活動） 4 資源向上支払（長寿命化） 5 取組状況の評価
IV 事業の仕組みについて 1 実施体制 2 国民への啓発 3 農地集積が進んでいる地域における本交付金の資源保全への対応状況 4 SDGsと本交付金の関わり	＜取組の分析・検証＞ 1 実施体制 2 国民への啓発 3 農地集積が進んでいる地域における本交付金の資源保全への対応状況 4 SDGsと本交付金の関わり	＜取組の分析・検証＞ 1 実施体制 2 国民への啓発 3 農地集積が進んでいる地域における本交付金の資源保全への対応状況 4 SDGsと本交付金の関わり
V 多面的機能支払交付金の効果の評価 1 資源と環境 2 社会 3 経済	V 多面的機能支払交付金の効果の評価 1 資源と環境 2 社会 3 経済	V 多面的機能支払交付金の効果の評価 1 資源と環境 2 社会 3 経済
VI 課題と今後の展開方向 1 課題 2 今後の展開方向 3 おわりに	VI これまでの課題と今後の展開方向 1 課題 2 今後の展開方向 3 おわりに	VI これまでの課題と今後の展開方向 1 課題 2 今後の展開方向 3 おわりに

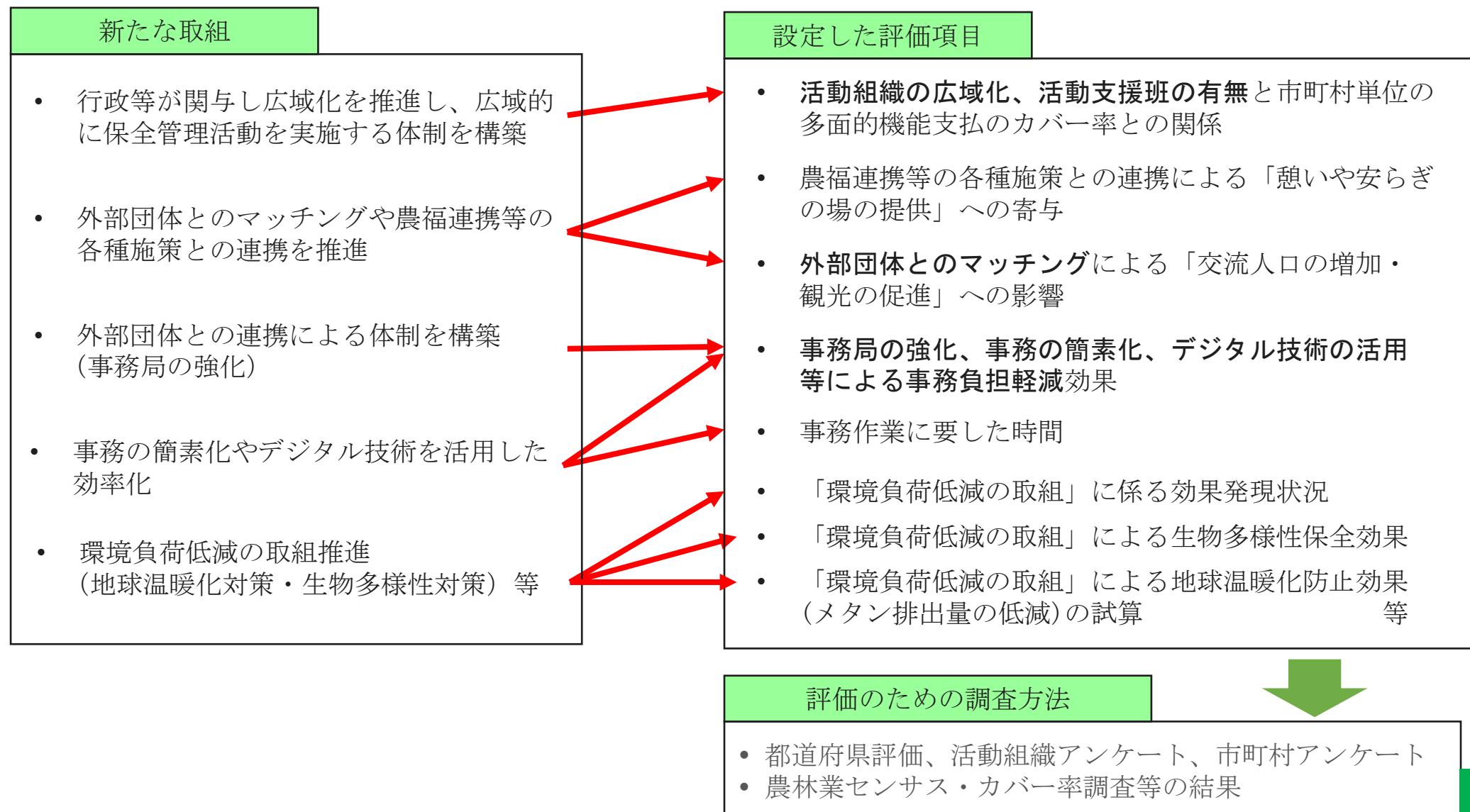
(1) 中間評価の構成（案）について

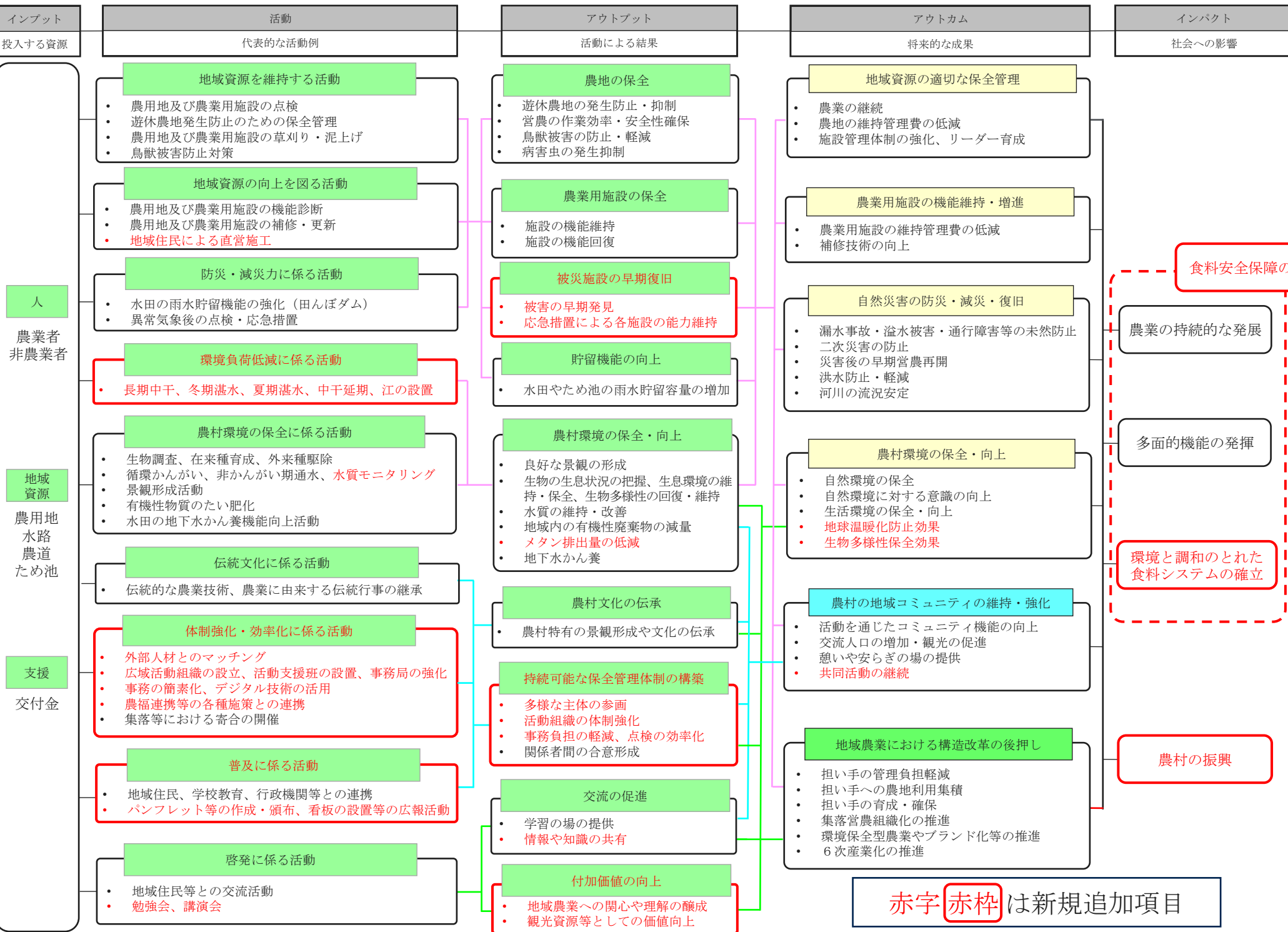
(2) 新たな取組に係る評価項目について

(3) 「質の高い活動」の評価の考え方について

3-2 新たな取組に係る評価項目について

- 新たな評価項目は、第2期対策の評価項目を基本とし、令和7年4月閣議決定の食料・農業・農村基本計画に位置付けられた多様な人材の参画及び活動組織の広域化、環境負荷低減の取組等を推進するための新たな取組を踏まえ、前回の第三者委員会で更新したロジックモデル（次ページ参照）に沿って設定。
- これらの評価項目は、第2期対策の評価項目と併せて都道府県評価、活動組織アンケート、市町村アンケート、及び農林業センサス・カバー率調査等の結果により評価する予定。





赤字赤枠は新規追加項目

(1) 中間評価の構成（案）について

(2) 新たな取組に係る評価項目について

(3) 「質の高い活動」の評価の考え方について

3-3 「質の高い活動」の評価の考え方（Ⅰ：定義）

多面的機能支払交付金による地域の共同活動の継続や集落機能の維持・発展への貢献

- 多面的機能支払交付金については、これまで農村地域において、**農業者のみならず地域住民等を含めて活動組織を形成し、それぞれの地域の実情に合わせた独自の取組**が行われてきた。
- 農村地域における人口減少・高齢化等に伴い、農村コミュニティが脆弱化し、地域資源の保全管理に関する集落活動の停滞が懸念されている中であっても、本交付金の活動組織により、**地域の共同活動の継続に貢献**してきているところであり、それによって、地域資源が適切に保全管理されるだけでなく、**地域コミュニティの維持・発展に貢献**してきた。
- 具体的には、
 - **広域化によるスケールメリットを生かした経費削減や活動の効率化、デジタル技術を活用した施設の点検・維持管理を行うことなどによる活動の効率化**
 - **地域の魅力を生かし、マッチングを通じた外部団体との連携などによる、地域への関係人口の取込み**
 - **子どもたちの地域の農業や食文化への理解醸成を目的とした、地域の小中学校との連携**
 - **地域の特徴的な植生や文化を生かした地域内及び世代間交流の取組や、横のつながりを生かした他の地域との助け合いによる活動の実施**
 - **豪雨災害を踏まえ、防災・減災の目的意識を持って地域がまとまって行う田んぼダムの取組**など、地域の課題を把握した上で組織内で目的意識を持って、地域の魅力や特色、新技術等を生かして工夫しながら取り組んでいる活動が見られる。

効果の評価に当たっては、交付金を通じた活動の量（組織・面積）にとどまらず、このような地域・活動の継続性を高める取組を、「質の高い取組」との位置付けで適切に評価をしたうえで、ポイントの抽出や全国展開していくことが望ましい。

「質の高い活動」の定義（更新案）

多面的機能支払交付金の活用を通じ、単に「共同活動の実施」とにとどまらず、**地域の課題に対応し、地域の魅力や特色、新技術、人と人とのつながり等を生かしながら、地域の共同活動の継続や集落機能の維持・発展につなげようとする活動**

3-3 「質の高い活動」の評価の考え方（Ⅱ：評価方法）

- 本交付金では、政策課題に対する解決策をロジックモデルにおける6つの成果（アウトカム）として整理し、そのアウトカムを活動の効果을把握するための「評価の視点」としているところ。
- 「質の高い活動」の評価は、地域社会の継続により地域の持続性が高まることを最終的な社会への影響（インパクト）とし、成果（アウトカム）として地域の課題解決を意図して活動に取り組んだかどうかという視点でその効果を確認、それに至った経緯（地域の課題把握や共同活動における工夫、投入する資源の量等）についても確認することで多角的に評価する。
- 中間評価では、事例の形で「質の高い活動」を把握、可視化し、定性的にその活動を評価する予定。

政策課題

- 農村の過疎化、高齢化、混住化等の進行に伴う集落機能の低下、地域の共同活動の困難化
- 農用地、水路、農道等の地域資源の保全管理に対する担い手農家の負担の増加

評価の視点（アウトカム）

地域資源の適切な保全管理

自然災害の防災・減災・復旧

農業用施設の機能維持・増進

農村環境の保全・向上

農村の地域コミュニティの
維持・強化

地域農業における
構造改革の後押し

段階的に評価

インプット

投入する資源

活動

共同活動

アウトプット

活動による結果

アウトカム

成果

インパクト

社会への影響

地域の課題解決のために、人・地域資源・支援（交付金）を投入し、地域の魅力や特色、新技術等を生かし活動を実施

地域の課題解決

地域社会の継続
（地域の持続性が高まる）

計画された行動

意図された結果

中間評価における評価方法（案）

事例の形で「質の高い活動」を把握・可視化し、アウトカム段階での効果、それに至った経緯を確認することで定性的に評価

施策の評価に向けて

具体的な事例とその定性的な評価を踏まえ、定量的な評価が可能か含め検討

4 中間評価に向けた今後のスケジュールについて

- 令和8年度第2回の第三者委員会では中間評価項目の材料となる、令和7年度の実施状況、活動組織の取組の評価、都道府県の評価結果及びアンケート調査結果についてお示しし、議論していただく予定。
- 令和9年度の第1回第三者委員会にて、中間評価（案）をお示しし、議論いただく予定。

令和8年度第2回委員会（予定）

- 令和7年度の実施状況
 - ・ 農地維持支払（取組面積、ブロック別実施状況等）
 - ・ 資源向上支払（共同活動）（取組面積、農村環境保全活動の実施状況、多面的機能の増進を図る活動の実施状況等）
 - ・ 資源向上支払（長寿命化）（取組面積、対象施設の量等） など
- 活動組織の取組の評価
 - ・ 活動組織の自己評価（活動の実施状況、活動の継続や展開に向けた取組の実施状況、活動の効果・活動による地域の変化等、増進活動による効果）
 - ・ 市町村評価（市町村総合評価等）
- 都道府県の評価
 - ・ 中間評価（案）の項目に沿って都道府県の評価を実施
 - ・ 「質の高い活動」は事例集を作成し定性評価
- アンケート調査結果（令和8年度中に取りまとめ分）
 - ・ 定量的評価項目（事務作業に要した時間等）
 - ・ 定性的評価項目（「環境負荷低減の取組」に係る効果発現状況等）
 - ・ 農林業センサス・カバー率調査（活動組織の広域化、活動支援班の有無と市町村単位の多面的機能支払のカバー率の関係等）

※ アンケート調査の実施に当たっては、重複して調査しない、可能な限り選択肢形式にするなど、回答者の負担に配慮。



令和9年度

【第1回委員会】

- 中間評価（案）の提示
左記項目を踏まえ、
中間評価構成（案）に沿った記載
- 「質の高い活動」の評価

○ 中間評価の公表
第1回委員会での議論を踏まえ、
中間評価の取りまとめ・公表